

海辺の散歩道

昭和 40 年代後半から始まった金沢地先埋め立て事業は、それまでの埋め立てと違い、海岸線に遊歩道を設け、木々を植えて、人々の憩いの場所となるように計画されました。

人工海浜を設け、海水浴や潮干狩りを楽しむことができる「海の公園」や、遊戯施設、水族館などを備えた人工島「八景島」が造られています。

長浜みはらし公園

開発された住宅地の街区公園です。横浜横須賀道路のトンネルの上にあり、遠く房総半島や丹沢の山々、富士山を望むことができます。

長浜野口記念公園

この辺りには、明治 28 年（1895）開設された「長浜措置場（長浜消毒所）」がありました。野口英世は海港検疫医官補としてこの年の 6 月に赴任してきました。同年 6 月、横浜港の沖合に停泊する船舶から隔離病棟に移された病人から「ペスト菌」を検出しました。これが北里柴三郎の伝染病研究所で確認されて野口の名は一躍関係者の間に知られるようになりました。

昭和 48 年（1973）、検疫業務は中区の港湾合同庁舎に移されましたが、敷地の一部が横浜市に払い下げられて歴史公園として一般公開されるようになりました。

隣地は厚生労働省の研修施設や輸入食品・検疫検査センターとなっています。長浜措置場の当時の建物としては「一号停留所」のみが残されていて、通常は非公開になっています。

「細菌検査室」は、関東大震災直後に復元され、現在野口英世関係資料と当時使用された器具類が展示されて自由に見学できます。「長浜ホール」は横浜検疫所長浜措置場のシンボルであった旧事務棟の外観を復元し、音楽を中心とした文化活動に利用されています。

「細菌検査室」と「長浜ホール」は、横浜市の歴史的建造物に指定されています。



長浜
細菌検査室



長浜ホール

長浜公園

昭和 57 年（1982）7 月から公開されている運動公園です。サッカーができる芝のグラウンド、野球場、テニスコートがあり、シャワー設備も整っています。噴水を中心とした中央広場には、芝生の広場や健康遊具が配置されています。また、南側には野鳥観察園があり、横浜で初めての人工干潟を持つ汽水池や湧水を利用した淡水池、アシ原、林など、多くの生き物たちが暮らせる環境が造られています。かつてこの辺りの海岸から長く突き出た岬があり「長浜千軒」と称されるほど大きな漁村がありました。応長元年（1311）の大津波で長浜村は壊滅してしまい、村を失った人々は柴町や千葉の富津方面に移ったといわれています。

金沢緑地

国道 357 号、金沢工業団地と並木住宅地との境に設けられている緩衝緑地です。南北に約 4km に渡って、細長く続いています。面積 15.3ha で、工業団地側には常緑樹が植えられ、住宅地側には花を楽しむことのできる木が多く植えられています。野鳥のための水飲み場も造られています。

海辺の散歩道

福浦の海岸に沿って長浜水路の入口から八景島マリンゲートにかけてのびる約 3km の遊歩道は、「海辺の散歩道」と呼ばれ、景色を眺めながら散歩を楽しむ人や釣り人が多く訪れます。

途中には、県警のヘリポートもあります。

海の公園

昭和 63 年（1988）7 月に開園した総合公園で、面積は約 47ha です。金沢地先埋め立て事業の一環として整備されました。かつての乙艦の海岸線を模して人工海浜が造られました。海水浴・潮干狩り・バーベキュー・ウィンドサーフィンを楽しむことができます。

園内には黒松などの高木約 6,000 本、その他低木が約 12,000 本植えられて、春の花見や晩秋の紅葉など、四季折々の風情も楽しめます。

八景島

金沢地先埋め立て事業で造られた人工島です。平成 5 年 5 月に、水族館、遊戯施設を有する八景島シーパラダイスがオープンしました。

江戸時代末期、ペリー提督が来航した際、艦隊が碇泊した海域は、「アメリカン・アンカレッジ」と名付けられました。

平成 22 年、その場所を望む八景島客船ターミナル側に記念碑が設置されました。